

# いきいき! プラチナナース

第1回

あさひ総合病院 院長補佐 (前看護部長)  
中嶋 育美さん

日本看護協会では、豊かな経験を持つ看護職が医療機関、介護保険施設等、幅広い場において今後ますます活躍することを期待し、2022年3月に「プラチナナース活躍促進サポートBOOK」を発行しました。

今回は、その中からさまざまなアイデアを繰り出し、プラチナナースの力を引き出し、活躍を後押ししている事例を紹介します。

## <基本情報>

病院名：あさひ総合病院 (109床)  
看護職員総数：123人 (うちプラチナナース13人※2~3年後に定年は7、8人)  
雇用実績：定年後の継続雇用5人/  
プラチナナースとしての新規採用2人 (上限年齢：なし)

## それぞれの個性性と意欲を尊重し、 適材適所へ配属

あさひ総合病院は富山県の東端、新潟との県境にある病院です。高齢者医療に力を入れており、住民の皆さんが安心して暮らせるよう、地域のニーズに合った医療の提供を目指しています。当院は地理的な要因もあり、看護師不足の状態が長く続いていました。しかし3年前に地域の高齢化を見据え、地域医療構想に沿って



病棟を再編し、介護や地域包括ケア、在宅医療への連携を強化したことで、今では当院で働きたいと言ってくれる看護師が増えています。

そうした流れの中で当院を支えたのがプラチナナースです。定年退職後も約1割はプラチナナースとして残ってくれています。別の病院で働いて、65歳を過ぎてから採用した方もいます。給料は経験年数に応じて支給され、職位によっては現役時代の7割程度の方もいます。ほとんどの方が「働けてありがたい」と言ってくれます。再雇用の際には看護部と本人とで面接し、配属先や働き方を決定する方針です。

私は看護スキルの次に、本人の働く意欲が大事だと思っています。ですから個性を見極めながら、それぞれの「このように働きたい」という気持ちを尊重します。実際に働き出してからの声掛けも大事で、「あなたのおかげでよく助かっているよ」と必ず言葉にして伝えます。

## 年齢を重ねても持続的に働ける部署を 新たに開設

プラチナナースの活躍の場は、入退院支援センターと総合相談窓口、通所リハビリテーションです。入退院支援センターと総合相談窓口は新しく立ち上げた部署です。プラチナナースは院内の仕組みを熟知しており、いざというとき誰につなげばいいかよく知っています。この2つの部署は、人生や看護の経験が豊富なプラチ

ナースにピッタリな場所です。また入退院支援センターでは、訪問診療医に同行する看護師の急な休み等、急な欠員が発生した際には、プラチナナースが対応する役割を担っています。

さらに、認知症患者向けの院内デイサービスにも、認定看護師1人とともにプラチナナースを配置しているのですが、やはり素晴らしい活躍ぶりです。

私はプラチナナースを“いぶし銀のナース”だと思っています。みんな患者さんの話をよく聞かし、いろんなことに気付きます。それが患者サービスの向上だけでなく業務の効率化にもつながり、若い看護師たちもその働く姿勢や物事の考え方等に影響を受けています。

こうしたプラチナナースは、病院を出てさらに地域での活躍も期待しています。今、保健医療介護の連携に向け町の保健センターと協力を強化しており、その中でプラチナナースにも活躍してほしいと思います。

## プラチナナース活躍促進 サポートBOOK

さまざまな形でプラチナナースが活躍している事例紹介のほか、安心して働ける職場づくりのポイントや、自身の健康状態や経済的ニーズに応じた働き方の選択に役立つ情報を紹介しています。

本会 HP から、ぜひ、ご覧ください。

